

令和4年度山口県立大学大学院国際文化学研究科国際文化学専攻追加募集
入学試験問題（日本語）

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

（上略）文学研究にしても歴史研究にしても、本格的な論文や本を書こうとしたら、ぜったいに一次資料に当たらなければならないということになります。二次資料だけで議論を進めようとしても、それは無理です。

ここでもう一つの問題が起こってきます。言葉の問題です。

まず、日本ではなく、外国のことを研究しようという場合、文学にしろ歴史にしろ社会にしろ、そこには A 言葉の壁がすぐ立ちふさがるとのことです。すくなくとも、研究対象とする国の言葉はほぼ完璧に理解できなければならない。フランスのことを研究しようと思ったらフランス語、ロシアのことだったらロシア語ということになります。フランス語ができないのに、フランスについての論文を書こうとしても、それは無理な話です。そのほかに、国際①コウヨウ語になっている英語も最低限はできなければ、（ a ）会議で議論したり、インターネットで文献を探すのに不自由を感じるでしょう。

これらは、外国のことを研究する場合は必要（ b ）の条件です。

しかし、こういって、日本は翻訳天国で、あらゆる翻訳文献はそろっているのだから、それを使えばある程度のことは可能だという人がいます。とんでもない間違いです。そういう人は（ c ）というものを信じすぎています。翻訳というのは、どんなに完璧な訳者でもかならず②ゴヤクをしますし、訳語にも訳文にも訳者の B バイアスがかかっていますから、原文とは別のものだと考えておいたほうがいいのです。私自身も翻訳を③ソウトウやっているので、よくわかるのですが、翻訳者自身だって、百パーセント正確に訳したという自信は絶対にありません。ですから、きちんとした（ d ）を書くときには、④ゲンショに当たることは必要不可欠になります。

日本語でも、明治以前のものについては同じことが言えます。（下略）

（出典 鹿島 茂『勝つための論文の書き方』文藝春秋、2003年121～122頁により、一部改変）

問1 文中の下線部①～④のカタカナを漢字で書きなさい。

① コウヨウ ② ゴヤク ③ ソウトウ ④ ゲンショ

問2 文中の二重下線部 A・B の意味を記しなさい。

A 言葉の壁 B バイアス

問3 （ a ）～（ d ）に入るもっとも適切な言葉を文中から探して答えなさい。

問4 文中の下線部「翻訳天国」とはどういう意味ですか。わかりやすく説明しなさい。

問5 文中の___部「日本語でも、明治以前のものについては同じことが言えます」というのはどういう意味ですか。適当な具体例を補って、200字以内で述べなさい。